# 報知新聞

# 青島だぁ！大変だぁ！

## 組合員に不当なロックアウト

## 怒る青島参議院議員

プロ野球に立ちこめている黒い霧はごぞんじですね。それを追及する立場にあるスポーツ新聞の〃報知新聞〃にも、実は同じような黒い霧がかかっています。

ベアと人権闘争に立ち上がった労働組合を押えるために、会社がガードマンと称する右翼暴力団を入れ、記者や工場の人や、営業マンのほとんどを締め出してしまったのです。参議院議員でテレビ司会者である青島幸男さんも、この暴挙にあきれて、怒っています。

写真＝「良識を売る新聞社が暴力団を入れるなんて」と語る青島さん

## 暴力団介入とは！

### プロ野球 黒い霧追及の資格なし

——「青さん、いま報知新聞で大変なことが起こっているんだ」

青島「いったい、どうしたんだ」

——「記者も、営業マンも、工場の人も就業を拒否されて、社内にはいれないんだ」

青島「ヘエ！そりゃ、重大事件だ。ロックアウトというやつだね」

——「報知新聞を印刷している報知印刷の昨年末のボーナスがでてないんだ。おまけに組合に分断攻撃をかけて第二組合を作った。報知新聞の組合にも、ベースアップ要求にこたえない——」

青島「春闘が長びいて、会社と組合の間がこじれたのだね」

——「それだけなら問題ないんだ。会社が右翼暴力団を社内に入れたからみんな怒っているんだ」

青島「なに？　暴力団、それ本当か」

——「うん。そりゃひどいものだ。なにしろ、軍服に戦闘帽だからね。会社の玄関でがんばっていて、いちいち首実験だよ。自分の会社にはいるのに自由にはいれないんだからみじめなもんだ。暴力団は、組合員にどんどん挑発行為をしかけてくる。社内で、空手の練習や、シャドーボクシングをやっているんだからね」

青島「そりゃ、めちゃくちゃだな。それが公正で民主的な報道をたてまえとしている新聞社のやることかね。一般会社の労使関係でもよく暴力団の介入を耳にするが、新聞社に暴力団がはいるとは、言語道断。まったく、ゆゆしい問題だね」

——「みんなも、その点をいちばん怒っているんだ。暴力団と結託している会社のなかでは仕事ができない。公正な記事は書けないとね」

青島「その通りだ。いまプロ野球と暴力団との〃黒い霧〃が社会問題になり、連日、報知新聞でも、告発記事を紙面に出しているじゃないか。その新聞社の経営者と暴力団のつながりがあるとすればプロ野球の〃黒い霧〃をきゅうだんする資格はないと思うよ。みんなが怒るのはもっともだ。一タレントとしても、国会議員としても、会社の経営者がやっていることは許せない。オレも微力ながら力をかすよ」

——「そりゃ、ありがたい。機会あるごとに、報知のなかで起きている暴挙を一般の人にも訴えてほしい」

青島「やるとも。ヒマさえあれば、報知の人たちが集まっているところへ行って激励してやってもいい。ロックアウトをうけて、つらいだろうが、最後までがんばって闘ってくれ」

▽抗議先
東京都中央区銀座西三の一
読売新聞副社長　務台光雄
東京都千代田区平河町二の二九
報知印刷所社長　岡本武雄

▽激励先
東京都千代田区平河町二の二九
報知新聞労働組合
報知印刷労働組合
大阪市北区野崎町四六
報知新聞労組大阪支部
報知印刷大阪労働組合

### ◎…闘争経過…◎

44・11・5【新聞、印刷】年末一時金要求を提出

11・20【印】会社が第二組合を作らせる

11・26【印】一時金に「平和協定」（憲法で保障された争議権の放棄）の条件をつける

12・11【印】第二組合は「平和協定」をのみ一時金妥結

12・20【新】一時金妥結

12・29【印】岡本社長、首切り予告などの社内放送

45・1・5【印】第二組合役員の昇進、報印労組役員の役職降下の不当人事

1・12【印】都労委が団交で解決をはかるよう会社に勧告

2・17【印】三人に指名ロックアウト通告

2・25【新、印】春闘要求を提出（会社はろくに団交を開かず、回答する意思をみせない。報印には平和協定強要）

4・14【印】東京地裁は三人のロックアウト者に三月分の賃金を支払うよう仮処分決定。会社の不当性明らかとなる

4・15　報知新聞社屋に右翼暴力団が導入される

4・22【新】ビラを張ったなどの理由で、大阪支部委員長ら五人を処分

4・28　国会の社会労働委員会で右翼暴力団導入を追及。

【印】全面ロックアウト通告

4・30【新】大阪地労委は、会社はビラを一方的にはがすな、など五人の処分の不当性を立証する三項を会社に勧告する。会社は東京の整理、校閲部に部分ロックアウト通告

5・1【印】大阪報印に全面ロックアウト通告

5・2【新】東京本社に全面ロックアウト通告

5・6【新】発送職場の臨時労働者組合員に部分ロックアウト通告

5・8【新】大阪本社に全面ロックアウト

# ショック受けた各界知名人の声

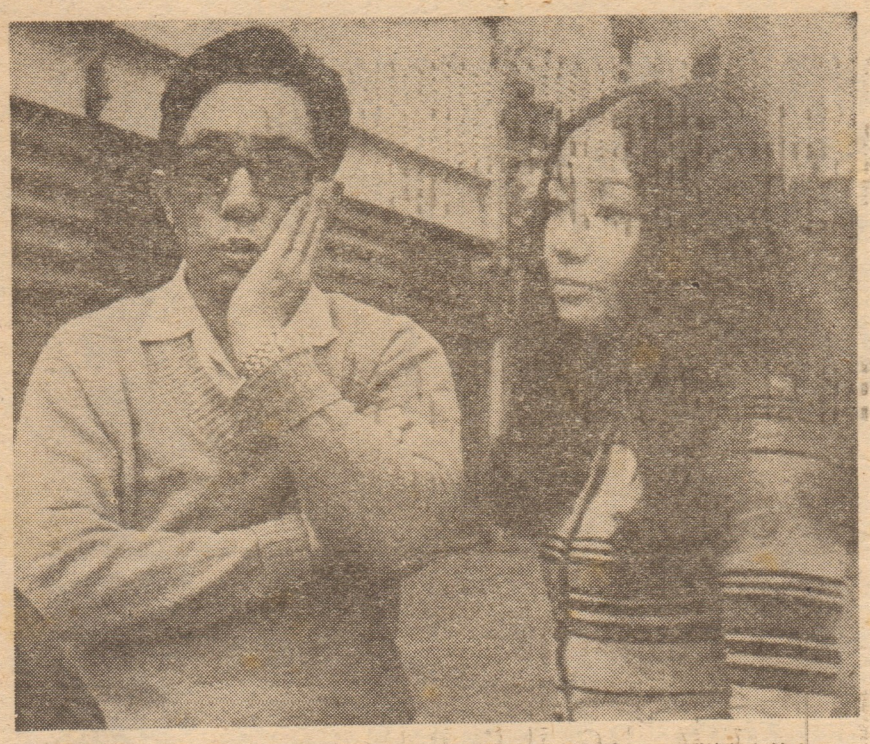
報知新聞、報知印刷所の争議は、文化人、芸能人の人たちにも大きなショックを与えています。文学座の北村和夫さん、小川真由美さんも争議の実情を知って、強いいきどおりを示しています。各界のみなさんの意見を集めてみると―。

## 私は組合を支持

### "生命線"侵した経営者

升田幸三さん（将棋前名人）

正義を追及すべき新聞社がともあろうに右翼暴力団と手を結ぶ。とんでもないことだ。そんなバカげたおそろしい話が現代の社会にありうるものか。どうしても想像がつかない。我々の味方である新聞社が社会の敵である暴力団を雇ったら一体どうなる。いやしくも新聞の看板をかかげる以上、これだけは絶対侵してはならぬ"生命線"なのである。争議のためなど理由にはならない。理由がつけば許されるという筋合いのものではないのだ。それを侵した報知新聞経営者の罪は大きい。私には頭が狂ったとしか思えない。もし組合に非があるというなら堂々と法律に照らして対決すればいいのだ。もっとも暴力団を使うような経営者なら法律ではとても勝てないだろうが…。暴力で組合を鎮圧したとしても、その瞬間から新聞が新聞でなくなることがわからないのか。社会の"公器"がこんな状態なのをよくもまあ政府が黙っているものである。私は断じて許さない。争議の過程はよくわからないが、経営者が暴力団を使った一事で、私は組合を支持する。



報知争議に深い関心をもって話しあう北村和夫さん（中）と小川真由美さん（右）＝東京・新宿区信濃町の文学座前で

## 言語道断ですよ

### "ひどすぎる…"と絶句

杉村春子さん（女優）

（ガードマンと称する戦闘帽姿の右翼暴力団の写真をみて）まあ、いまどきこんなことがあるんですか、ひどすぎる（と絶句）。正義と民主勢力を守らなければならない新聞社にこんな人たちをいれるのは言語道断ですよ。働くものの権利を暴力で押えつけようというのは断じて許してはいけません。ロックアウトという異常な中で新聞を出しても質の低下は当然でだれもが報知をみないで他のスポーツ紙をみるようになるでしょう。

## 暴力団とはショックです

小林桂樹さん（映画俳優）

むかしは芸能界も確かに暴力団とのつながりがあったが、いま私の知るかぎりほとんど、手を切っている状態だ。それなのに時代の先端をいく新聞社に暴力団がいるとは…。

しかも、暴力団をペンでたたくはずの新聞社が…と思うとまことに不思議でならない。

不祥事を報道する"御本尊"がこういうことになっていると聞き、おどろくばかりです。ショックです。

## さびしい限りの大相撲記事

清国関（大相撲・大関）

ギャンブル好きな私は、報知新聞の予想欄を楽しみにして読んでいる。ところが、このごろ、私の好きなギャンブル記者の名前がみえない。その人の予想を参考資料にして検討していたのが、それができないので困っている。それに、本場所（夏場所は5月10日から蔵前国技館で開催）が近づくと、いつも相撲の記事が出るのに、このところ報知新聞の紙面には相撲記事がめっきり少なくなった。なんとなくさびしいことだ。その理由が争議にあると聞いて…。

## 報知闘争は新聞人として当然

織田幹雄さん（アムステルダム五輪三段とび金メダリスト、元朝日新聞運動部長）

フェアプレーをモットーに過ごしてきたスポーツ人として、新聞人となってからは厳正中立を堅持してきた一人として、報知経営者のあくどいやり方には心底から腹が立つ。サンケイの一千人首切りの首謀者岡本を報知に送り込んだ読売の先見のなさにはあきれ返る。報知の闘争は、新聞人として当然の闘い。悪どい経営者を追い払うまで徹底的にがんばれ。相手は手ごわく、ずるいが、報知新聞、いや全新聞社の"大事なレース"だ。良識を全力で守ってほしい。

## 組合員が気の毒

### 常識で考えられぬこと

村上元三さん

イデオロギーの点ではぼくにはぼくなりのものがあるが、純粋に考えたら大部分の組合員がロックアウトされて会社側が月給も払わないなどということは常識では考えられないことだ。それではあまりに組合員が気の毒だと思う。ともかく紛争を一日も早く解決するにはお互いに歩みよってほしい。そのためにまず会社側と話し合いの場をもってもらいたいものだ、と思う。（作家）

報知新聞の連載小説

「白い風の道」コンビ

## 明日のしあわせを

### ムリは必ず限度がある

中尾進さん

労使の問題はなんどでもくりかえされるが、いつも思うのは個人の意見が一つの団体となると別の動きになりやすい。どうしてそうなったか、過去にこだわっては問題解決にならない。

会社側も組合側もそれぞれいいぶんはあるだろうが大多数の働く人々のあすのしあわせを第一に考えることが眼目だ。無理を押し通すやり方には感心できないし、必ず限度がある。（画家）

まるで戦時中　これが報知新聞社の社内！　戦時中の悪夢さながら、きょうも報知の人はおびえている

## ジョークショック

A「おい！　今度読売ジャイアンツの私設応援団をジャイアンツ側が拒否したんだってな？」

B「うん…そのかわり、読売系の報知新聞で私設暴力団を雇ったんだってよ」

×　×

ある民家に一人の男、傷だらけになって息もたえだえにかけ込んできて

男「助けてください！　会社のストに参加したら社長が暴力団を呼んでわたしを殺すっていうんです」

主人「それは大変だ！　よろしいすぐ新聞に電話して記者にきてもらいましょう」

苦しい息の下から

男「わたし、その新聞社の記者なんです」

## スクラム

◆報知新聞、報知印刷の争議は、朝日ジャーナル五月十七日号でとりあげられています。文化ジャーナル「マスコミ」欄で「暴力介入の争議」というタイトルで一ページにわたって、ストの実情を書いています。このなかで、会社側がやとったガードマンと称する団体は、スト破り専門の警備会社で、飯島代表取締と恩滋取締は一昨年凶器準備集合罪で逮捕され現在保釈中の身であることを暴露しています。（ぜひ読んでください）

◆十一日放送のラジオ関東「昨日のつづき」（午後10時40分）でもこの争議が話題になります。同じマスコミのなかで働く人間としてマスコミ労働者にかけられた攻撃はゆるせない、と前田武彦さん、はかま満緒さんら出演者が、経営者の非常識を非難します。「こんなバカなことが、東京のど真ん中、しかも新聞社という言論機関の中でおこるなんて…」声をふるわせます。（必ず聞いてネ）

報知争議共闘会議

日本新聞労働組合連合会